

南あわじ市 平成 22 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(事業 委託 補助用)

I 基本事項

		整理番号	1248
事業名	南あわじ市公民館活動事業	予算科目	会計 一般会計・1 款 教育費・10款 項 社会教育費・5項 目 公民館費・2目
担当部課名	教育部 生涯学習文化振興課		
電話	0799 - 37 - 3020		
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	社会教育法
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	人づくり 知恵あふれ 郷土愛が満ちるまちづくり	
	まちづくりの目標	情熱と生きる喜びあふれるまち【生きがい】	
	施策目標	仲間との絆を深め、情緒やセンスを磨く、芸術文化活動・スポーツ活動を盛んにする	
該当する事業について「 」を選択		<input checked="" type="checkbox"/> 施策的事業	<input type="checkbox"/> 業務委託 <input type="checkbox"/> 負担金補助

II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人に) 講座を受講しようとする市民(対象人数:平成22年3月末現在)		対象人数(人) 52,012
	目的	意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 教養及び文化に関する各種公民館講座を設けることにより、市民の学習への向上心を高めるとともに、市民のふれあい交流により、豊かな感性と実りある人生を見出す一助とする。		
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか) 様々な公民館講座を用意し、市民の学習意欲に応えるものとする。受講料については、受講者から応分の負担を求めている。 英会話教室、パソコン資格講座、園芸教室、道を楽しむ会、栄養教室、華道、韓国語、少年少女合唱教室、リラクゼーション講座、ヨガ講座、プリザーブドフラワー教室、レザークラフト教室、ネイルケア教室、フラメンコ教室、子ども和太鼓教室等		
	背景	(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など) 広い年齢層の参加を目指し、少年少女合唱団、パソコン教室等、多彩な内容を盛り込んでいいるものの、講座生の多くは65歳以上の高齢者である。壮年層や青年層を講座に誘うための方策として週末開催や夜間講座を増やす手段もあるが、壮年層は就業年齢であり青年層は小グループでの多様な交流が主体となっている社会構造があり一挙に解消ができない事情がある。 しかしながら、市民の35%を占める60歳以上の高齢者へ学習機会を確保する意味で公民館講座事業の必要性は十分にあると考える。		
	事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市直営 <input type="checkbox"/> 民間・その他 ()		
事業期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし			
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input checked="" type="checkbox"/> 旧緑町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 合併前はそれぞれの市で独自の講座が行われていた。 合併により、選択できる講座内容が増えたと言える。			

Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

事業に対する 目標の設定	指標名	公民館活動費					指標単位
							人
	指標説明 (指標算出 方法等)	南あわじ市公民館講座の参加者実数					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	目標値	600	1,085	1,085	6,930	6,780	
	実績値	438	515	434			
	達成度 (%)	73.0	47.5	40.0	-	-	
	目標値設定 の考え方	各講座の合計募集定員					
資源配分 (インプット)		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	直接事業費 (千円)	0	3,234	2,842	2,697	2,521	
	報償費(公民館講座謝礼)		2,877	2,278	1,992	1,984	
	需用費(消耗品費・印刷製本費)		250	178	209	189	
	役務費(折込手数料等)		107	107	166	128	
	講座指導委託料			279	330	220	
	財源 (千円)						
	国						
	県						
	起債						
	その他		1,947	1,587	1,241	1,205	
	一般財源[A]	0	1,287	1,255	1,456	1,316	
	人件費(正規職員)[B] (千円)	3,612	3,683	3,384	3,384	3,384	
平均人件費(1日当り)	30.1	27.9	28.2	28.2	28.2		
事業量1(事業に要した日数)	30	33	30	30	30		
事業量2(事業に要した人数)	4	4	4	4	4		
年間経費([A]+[B])	3,612	4,970	4,639	4,840	4,700		
「目的」対象人数1人当り経費 (円)	69.4	95.6	89.2	93.1	90.4		
経費に関する 補足説明	平成19年度は、各地区の公民館活動事業に予算計上。 財源のその他は、講座受講料である。 平成21年度まで決算額。平成22年度以降当初予算額。						

IV Check (事業の自己評価・一次評価)

		単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
達成度	目標達成度	%	73.0	47.5	40.0	-	-	
	(事業目標の達成度分析、問題点・課題などを記入。) 多くの市民の学習意欲・仲間づくりに答える意味から、必要な施策であり効果は果たしていると考え。 平成20年度から新しく『よくばりチョイス』という形で公民館講座を統合して、募集から講座実施までの事務を統括して、より多くの市民に幅広い公民館講座をお手軽に受講してもらうべく事業の推進を行った。 しかしながら、募集定員に対する講座の充足率という目標では、大幅に達成度が低下する結果となりました。						自己評価 (5点評価)	4
有効性	(住民満足度の分析、問題点・課題などを記入。) 公民館講座は、長年同じ内容を繰り返すのみで、受講者の固定化と高齢化、マンネリ化が進行してきたので、新しく『よくばりチョイス』を公民館講座の取組みとして始めたが、予想より新しい受講生は少数だった。						自己評価 (5点評価)	4
	事業単価	円	69.4	95.6	89.2	93.1	90.4	
効率性	(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 新しく始めた『よくばりチョイス』も、現在の4公民館に別れた事務体制、人員体制の下で、僅か1年で中止になってしまった。昨年度途中から『よくばりチョイス』の継続を目的として開設した短期集中型講座『お手軽体験コース』についても、職員の賛同を得ることが出来ず、1年で廃止することとなった。 事業予算については統合されたものの、募集チラシを1枚にただけで、講座運営については4公民館バラバラに実施されており、非効率的であると言わざるを得ない。						自己評価 (5点評価)	3
	公共性の高低	<input type="checkbox"/> 高	<input checked="" type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低				自己評価 (5点評価)
必要性	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 地区公民館活動の中でも各種のサークル活動があり、市の文化団体連絡協議会には4,000名が参加している。この数字を見る限り、市民の学習意欲は高く、市が行う公民館講座は今後も継続を必要とする。 ただ、講座運営については充足率を重視するあまり、同じ講座を多年に亘り繰り返している現状にあるといえる。市が主体的に運営する講座としての役割を明確にすべきである。						自己評価 (5点評価)	4
	自己評価をふまえた現状分析	平成20年度から緑公民館、西淡公民館、三原公民館、南淡公民館で開催する各種講座について、募集チラシについては一元化することができたが、講座の企画・運営については各公民館バラバラに実施されているのが現状である。 市民の様々な学習意欲に答えるための施策として、この公民館講座は十分には機能しておらず、見直しが必要である。						<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>評価グラフ</p> </div>

V Action&Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成23年度にできる改善・改革	平成24年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し
	講座内容の検討は平成21年度の受講者数や受講者からの意見をもとに、講座数と講座内容を検討したい。	同左。
(現状維持以外の場合) 具体的な改善方法)	南あわじ市公民館講座として、募集チラシだけでなく運営についても統合するほうが良い。本当の意味で住民の意見を取り入れた公民館講座を創造するためには、3年を超えて継続している講座については自主運営サークルとして独立してもらい、一般住民から選任した検討委員会等において講座選定を行うようにすること、講座運営についてももう一度『よくばりチョイス』のように統合したものにすることがある。	同左。
改善によって期待される効果 (現状維持以外の場合)	効果(アウトカム)面 公民館講座の受講生については、メンバーの固定化とともに高齢化が進行しているが、新たな層の受講生を獲得することで、生涯学習事業としての活性化と幅広い学習ニーズの掘り起こしに繋がることが期待できる。	効果(アウトカム)面 同左。
	コスト面 公民館職員にとっては、仕事が複雑になり手間は掛かるが、コストは掛からない。毎年同じことを繰り返すだけであれば、簡単であり、手間も掛からないが、教育事業に携わる職員としての知識や経験が増えることは無い。職員を含めた人づくりと考えると、それなりの効果は期待できる。	コスト面 同左。
(現状維持の場合も記入)	仮に事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面) 公民館施設として現在の4公民館を存続させるのであれば、公民館講座を無くすことで利用者の減少や南あわじ市の社会教育施策への不満を招く恐れがある。 公民館活動を行うサークルの多くは、初めは公民館講座として出発し、数年間学んだ中で自主活動サークルとして独立して、その後も活動を続けているグループである。教育の継続性を勘案するならば、中止することは自主活動できるであろうグループの活動の芽を摘むことに繋がる恐れがある。	